

「私たちは牛馬でもモノでもない！」考えよう職場の努力に報いない超低額回答の意味を！  
安全で安心して働ける会社にするためにたたかい続ける J R 東労組横浜地本緊急声明

3月12日、会社から申17号「2026年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」、申18号「2026年度夏季手当に関する申し入れ」の回答が示された。

ベースアップは平均3,271円（能力昇給区分2と同一の額）で率にして0.92%、昇給は能力昇給を実施（平均3,271円）で、夏季手当は役割遂行賃金の2.9ヶ月という超低額回答で、私たちの要求から大きくかけ離れている。大手企業が軒並み前年を上回るベースアップを実施しているなか、ベースアップ額が前年比で76%も引き下げられる理由は見当たらない。（前年ベア平均13,782円）

中央本部は3月16日、申20号「あらゆる分断と賃金の抑制を許さず、現場第一の姿勢で職場の努力に報い、生活とモチベーションの維持・向上の実現を求める緊急再申し入れ」を行った。緊急アンケートを実施し約2万4000件の切実な声をもって会社に再考を求めてきたが、回答を修正するに至らなかった。

会社主張は「①ベアは、過去最高の営業収益だが、この1年間におこなった制度改正や処遇改善等を考慮し総合的に判断した。また、様々な実施方法の中で職責は重要な要素であることを検討して回答した。②夏季手当は、営業利益を重視したが、過去最高の1,093,200円である。③賃金カーブは、能力昇給や夏季手当等の一つの手当の一断面で見のではなく、65歳まで働けば賃金は全社員が向上する。④ベア回答について『10%引き上がる』、夏季手当回答について『過去最高額だ』という肯定的な意見が多い」と述べている。

社友会会員の皆さんは、いつ、どこで、そのような「肯定的な意見」を述べたのだろうか？ 私たちが現場で聞いた声は「少ない」「ベアと制度改正は別物」「ゴマカシだ」といった、職場の努力に報いない経営姿勢に対する怒りの声であり、緊急アンケートの2万4000件の声と一致する。また、回答指定日を無視した早期回答に「ダイヤ改正や運賃改定の対応で忙しいなかでの早期の回答であり春闘破壊だ」といった声が出されている。一方で、管理者を含めた組合未加入者の多くは「（回答の内容が）よくわからない」といった声であり、あきらめの声はあっても、肯定的な声は一つもなかった。

緊急再申し入れでは、①組合員・社員の奮闘と努力を経営幹部は受け止め考慮要素とすること。②制度改正とベアと昇給は性質が異なり別物であること。③その都度の労使での団体交渉での議論を経て決定していくこと。④人事・賃金制度の改正は今後の費用を抑制するものではないということ。⑤来年以降、制度改正による職務能力給の引き上げや各種手当等の引き上げを示さないこと。⑥平均3,271円のベアを今後のベアの基準にしないことの6点を確認した。

横浜地本は2026 J R 総連春闘を安全春闘と位置付けたたたかい抜いてきた。「新たな施策」の狙いを総対話で掴み出し、線路内落とし物拾得作業の問題点や南武線宿河原駅での異常現示で運転した事象の原因究明をおこない、職場に安全文化を根付かせるたたかいを継続している。3月3日に開催した「考えよう私たちの生活と働き方！ 勝ち取る働き度に見合った賃金！ 安全で安心して働ける健全な会社を取り戻す横浜地本春闘総決起集会」には総勢224名が結集し、労働実態・生活実感から「賃金はたたかいてるもの」として、ベア一律18,000円、夏季手当3.2ヶ月+50,000円を「自分の要求」としてきた。

組合員・社員の皆さん！ 2026年度の自らの賃金がいくらになるのかははっきりしているだろうか？ 賃金は前払い（前契約・後払い）であり、春闘によって次年度の賃金＝年間の労働時間に対する契約金が確定する。あとは、会社が買うすべてのモノと同じように、契約にのっとり牛馬のごとく働かされるのみである。だからこそ、働き度に見合った賃金を求める春闘が重要なのだ。社員が賃金や制度について「わからない」や「考えられない」ことが会社にとって一番都合がよい。それこそ物言わぬ牛馬以下の扱いになってしまう。各所で要員不足やコスト削減からくる悲痛な声が叫ばれるなかで、自らの働き方と賃金に目を向けようではないか。

「勝つ方法はあきらめないこと」だ。私たちは最後までたたかう！ そして、安全で安心して働ける健全な会社にするために、J R 東労組に結集し、共に声をあげようではないか！

2026年3月24日  
東日本旅客鉄道労働組合横浜地方本部